

第4次日野市学校教育基本構想 骨子案

1. 構想に込められた思い
2. 構想の全体像
3. ワークショップ
4. 構想の各項目



令和5年10月24日(火)

日野市教育委員会 事務局

1. 構想に込められた想い

1. 構想に込められた想い

日野地域未来ビジョン2030

日野地域未来ビジョン2030の全体像



ビジョンで実現したい価値観・未来像は「しあわせのタネを育てあう日野」

幸せのカタチは人それぞれ。

一人ひとりの未来への想いをタネになぞらえ、2030年に咲かせたい花（こうなったらいいなという理想の日野）を思い描いて、一人ひとりが日々のアクションで未来に向かってタネを育てていきます。

1. 構想に込められた想い

日野市立管理職・教育委員との対話や第4次日野市学校教育基本構想策定委員会を踏まえた

第4次日野市学校教育基本構想の望む姿

策定の手続・構想の位置付け	構想の目指す姿	構想の内容
・第3次基本構想の理念の継承 ・みんなの声で作成する構想 ・関係者それぞれが選択する裁量・余白のある構想 ・試行錯誤しながら肉付けしていく構想 ・策定のストーリーが追える構想 ・子供目線を大切にした構想 ・教職員の楽しさを大切にした構想 ・何をするか、何ができるかを明確にした構想 ・多様な子供たちにあった教育がなされる構想	・Well-beingとSustainabilityを前に進める構想 ・学校がオーナーシップをもち、応援される・元気になる構想 ・バラエティのある取組を進める構想 ・家庭・地域を含め、関係者がそれぞれの役割が明確化した構想 ・みんなの声を大切にする構想 ・子供たちが表現し合う構想 ・他者を受け入れられる構想 ・人間関係の形成 ・教職員が働きやすいシステム ・具体的なプロジェクトとそれを支える体制	・具体の仕掛け、優先順位、展開計画が見える構想 ・子供が選択できる活動がある構想 ・方向性で行うことが分かりやすい構想 ・一人ひとりを大切にする構想 ・家庭・地域・学校の役割が明確な構想 ・施策と指標がある構想 ・具体的なプロジェクトがある構想 ・コロナからの学びを加えた構想

1. 構想に込められた想い

第4次日野市学校教育基本構想の望む姿

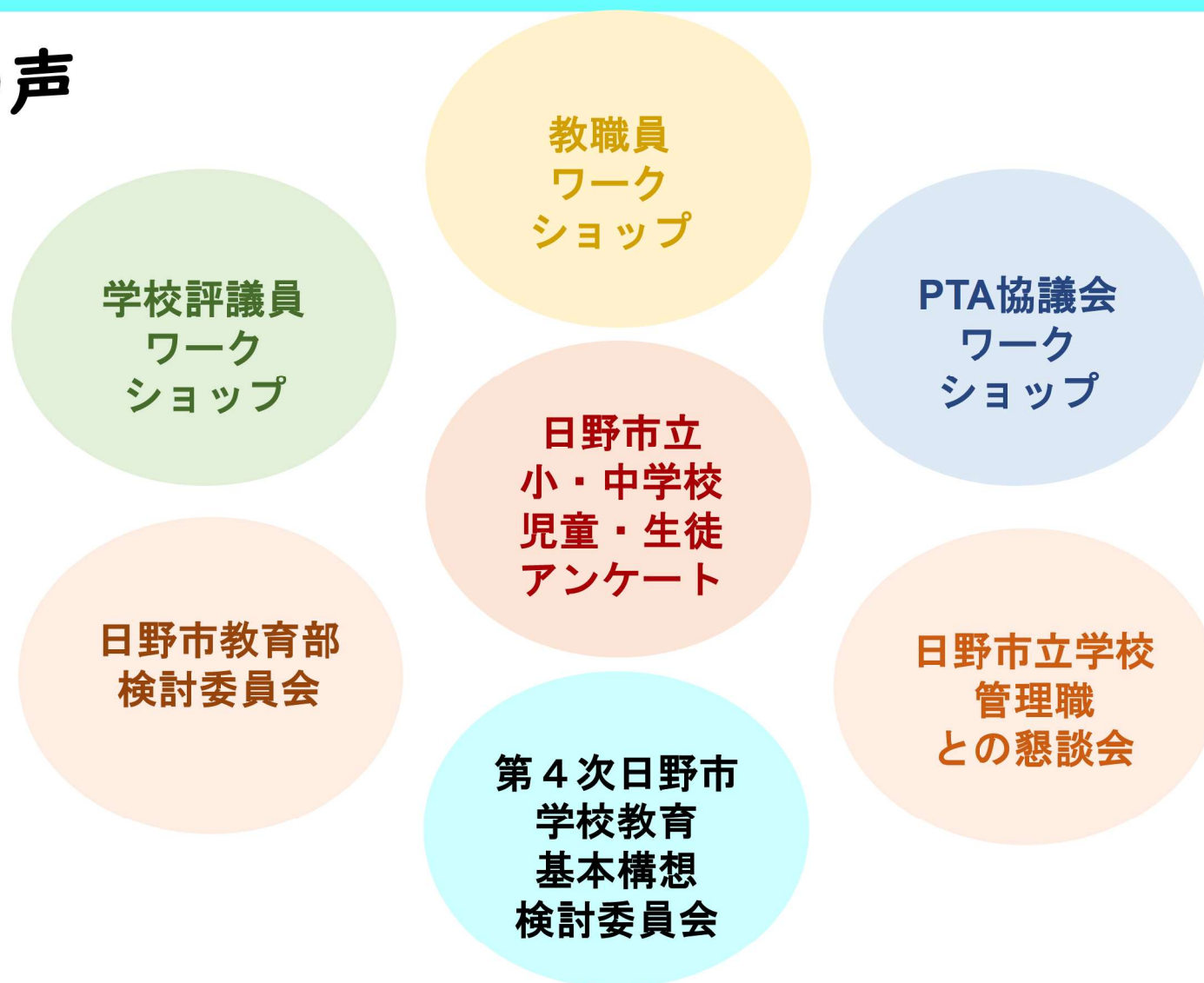
「あなたのまわりの、すべての“いのち”は
よろこびあふれていますか？」

一人ひとりのWell-being、持続可能性、共生社会の実現と
いった大切な願いが込められたこの問を、日野市立の学校教育
では、引き続き、大切にしていきます。

2. 構想の全体像

2. 構想の全体像

みんなの声



2. 構想の全体像

構想の位置付け

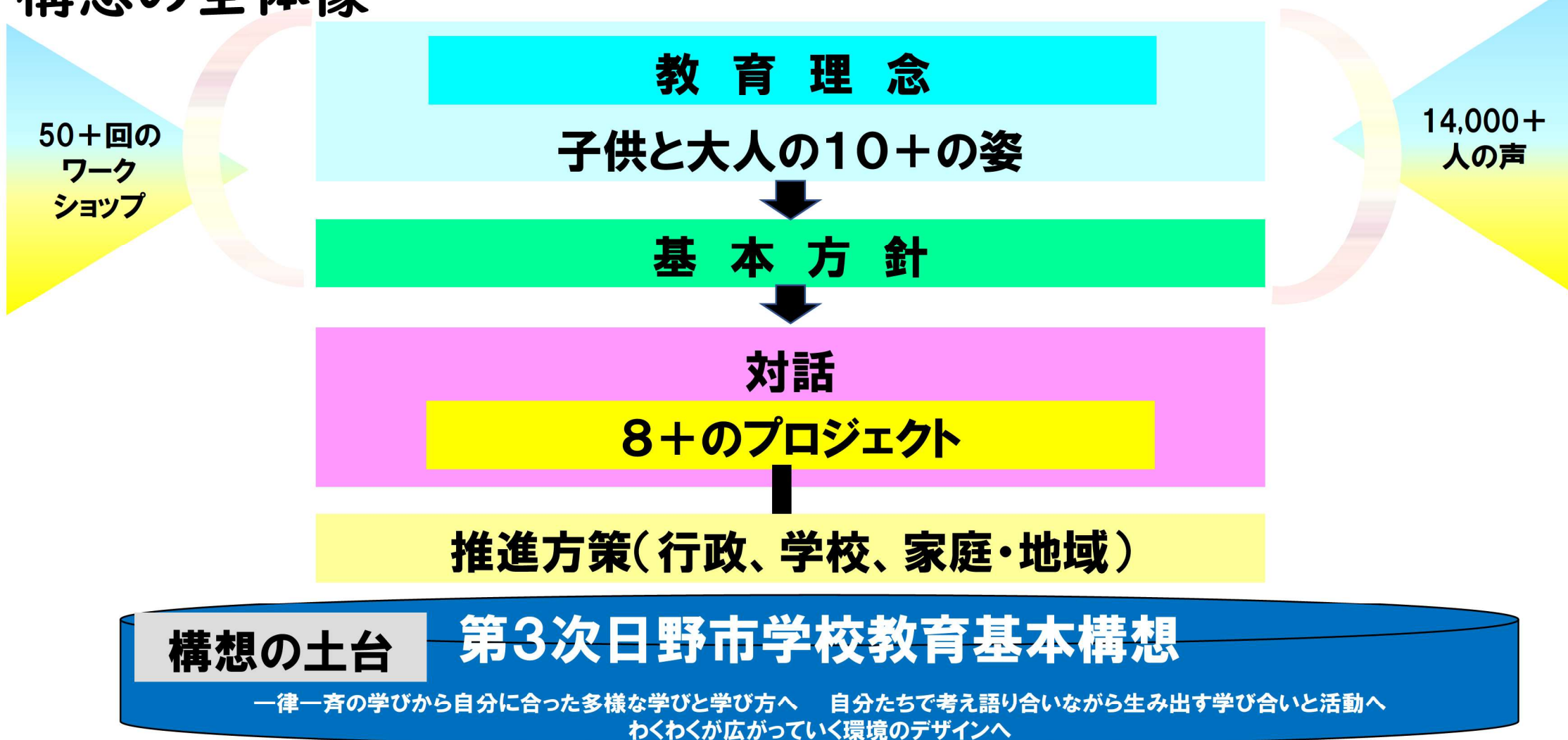


第4次学校教育基本構想は、本構想を踏まえて年度ごとに策定する「教育委員会重点施策」及び「学校経営方針」によって肉付けされ、一体として全体を構成し、運用していくことを検討しています。

「教育委員会評価」及び「学校評価」では、本構想の全体に基づき、その進捗の評価を行い、取組の改善を行います。

2. 構想の全体像

構想の全体像



3. ワークショップ

3. ワークショップ

名称	PTA協議会ワークショップ	教職員ワークショップ	学校評議員ワークショップ
日 時	令和5年7月19日（水）	令和5年度夏季休業期間	現在実施中
参加者	PTA協議委員・担当校長	各学校教職員	各学校管理職・学校評議員
内 容	・子供たちに身に付けてほしい力 ・5年後の日野市立学校（園）の姿 ・学校教育で大切にしていきたいこと ・5年後の学校（園）の姿に向けた取組	・5年後の日野市立学校（園）の姿 ・5年後の学校（園）の姿に向けた取組 ・5年後の学校（園）の姿に向けて、学校以外（教育委員会、保護者、地域等）で取り組んでほしいこと ・5年後の学校（園）の姿に向けて、大切にしたい指標	・子供たちに身に付けてほしい力 ・5年後の日野市立学校（園）の姿 ・学校教育で大切にしていきたいこと ・5年後の学校（園）の姿に向けた取組

3. ワークショップ

5年後の日野市立学校の姿に向けた具体的な取組

PTA

保護者同士のつながり

参加する保護者を増やす お父さんも PTA
共に願い合い、共に歩む 共にあろうとする

情報発信

学校の見える化 学校や市がどれだけ考えて
PTA 会員に現状の活動を広く伝える

学校への支援

課外活動の支援 学校の負担を軽減する 必
子供たちに様々な気付きや体験を提供してい
外部との連携調整 学校、保護者と協力体制
学校・行政とのつながり 学校へおかわるこ
学校への興味をもつ 学校への協力 地域と
子供たちが学校生活を楽しめるために支
保育園、幼稚園、小学校、中学校の連携、交
学校側と保護者との互いの距離を縮めるため

仕組みづくり

短期・長期プランを一緒に立てる 学校をサ

子供への働きかけ

素直な大人でいる 学び続ける 関わり続け
子供のやりたいことをたくさん経験できるよ
子供の声を聞く 子供の違いによりコミュニ
おせっかいを行いたい 見守る みんなに校
「今」をみて、「今」を大切に、互いを理解し
自分自身の行動・言動に気を付ける 学校の

教員同士

教員間での理念の共有

教職員ワークショップ

授業づくり 授業力向上 カリキュラム

学級づくり 特別活動 特別支援教育

子供への働きかけ 子供たちの学び方

働き方改革 職員室 放課後 情報発信

施設・設備・予算 学校への支援

子供たちに身に付けてほしい力

家庭・地域との連携 保護者同士のつながり

入れた授業づくり
入れた授業づくり
高める授業づくり
図る
た学習方法
とを考えさせ解決していく
題の設定や宿題
との楽しさ
の全教科対応 デジタルとアナログの活用
な学習の時間の充実
が高い学びの獲得

びたいものお学べる研修
教育についての研修の充実
方からや教員同士など）
策） 快適な学びの環境のアイデア出し
はなく筋道を立てる

のある職場環境の実現
働きやすい環境を求める 授業時数の厳選
・テスト・宿題・行事・カリキュラム）
子供の自己評価を学期のまゝめとして利用
・1学級複数担任制 教員の増員
少人数指導
材研究 子供と向き合う時間
安全点検や事務処理等） 適切な職務分配
やることの見える化
教師・子供のストレス要因の改善
員が悩み続ける 部活動の完全外部化

3. ワークショップ

教職員の方へ

教員の働き方

勤務時間内

教員の負担

勤務時間の

教育委員会からの学校現場への業務の精査 教育委員会から依頼される事務作業の軽減

時数のゆとり 2 期制 研修・研究の見直し 業務の精選
登下校指導・給食・掃除指導・会計事務・芝・畑・ビオト
アンケート集計や分析の外注と簡素化 通知表廃止
人的配置（正規・非正規教員）の増員 副担任の導入（各
少人数学級の実現〈12人・20人・25人・30人学級
学校外の様々な企画を学校への窓口にならない 学校外や授
部活動の地域移行 メンタルヘルス 学校運営サポート組
ハッピ移動教室を市教委から旅行会社へ一括依頼 水泳指
学校でどうにもできない制度や環境の整備 学校でやるこ
日々の取組 日々の小さな積み重ね（特にあいさつ）

人材

マンパワーの強化 人材の確保 人的環境の充実 人員増
放課後学習を見てくれる人 ボランティア 会計を専門に
子供の個性の興味が寄り添うことができる人材 主体的な取
各学年に学習支援や情緒支援ができる人員の配置 各学年
インクルーシブ教育のための人材の確保 大学生スクール
SSS の雇限強化 校内わかば教室の設置 人材バンクの設
専門性の高い教員の配置 カウンセラーの常駐又は在校日
日野市採用の教職員（地域に根強い人材・加配） 教育に

学校施設

学校の施設の整備 利便性に優れた校舎 老朽化の改修改
体育館の冷暖房設備の設置 教室の増室 ホール・図書室を
冷暖房等の教室環境 学校の電話回線の増加 学校のプー
児童数にあった施設

学校予算

教育予算の拡充 財源確保 ゆとりのある予算 必要など
教育環境が充実するような予算 外部人材・講師を呼ぶ予
設備・人材・教材の予算を増やす 社会科見学のための交

地域との連携

地域づくりの力と人との関わり 安心して学習に取り組める環境作りの協力

・安心して遊べる場の充実 地域での居場所づくり
る場、お年寄りも見守りに加えられる場）
リストを共有
くれる窓口や担当者の設置
委員会・保護者・地域で連携できる環境作り
で系統的に継続して地域の方と関わる
の充実
連携して子供たちを指導していく

意識

育てるような地域作り ダメなことはダメと伝える

声に耳を傾ける 必要な支援の充実
組への信頼と支援 学校の自由裁量
基本構想の作成 統一した指針 日野市の財政立て直し
発信 市全体で子供を育てる意識づくり
子供の安心安全の場づくり
の情報モデル教育
することを学ぶ機会を保障するための集団確保
深まる合同研修

の子供が満足感を得られるための対策
支援環境の整備

学校以外（教育委員会、保護者、地域等）への要望

教職員の働き方改革

人材確保

学校予算

学校施設

特別支援教育

不登校対応

家庭・地域との連携

4. 構想の各項目

<子供たちが育んでいってほしい力>

すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力

持続可能性

Well-being

共生社会

50+回のワークショップ

14,000+人の人

子供と大人の10+の姿

子供・学校・家庭・地域からの声を凝縮した、日野市の学校教育にかかわるみんなで共有したい姿

<みんなの姿>
自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿
インクルージョン

<みんなの姿>
変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
学びの羅針盤

<みんなの姿>
自分たちで考え、語り合い学び合い、違いを力に世界を広げ、学び続ける姿
対話

<学校の姿>
目指す学校像に向け、チームとして協働し、学び合い、成長を実感できる姿
教職員の学び・協働・成長

<学校の姿>
子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

<学校の姿>
子供たち全員の居場所と参画・活躍の機会を支える姿
居場所、活躍

<学校の姿>
教職員が安心して挑戦でき、様々な関係者から応援される姿
挑戦、応援される学校

<家庭・地域の姿>
生き生きとした自分たちの学校に向けて、見守り、応援し、ともに行動する姿
見守り・応援・協働

<家庭・地域の姿>
ありのままを認め、生き生きと遊び、学べる環境を支える姿
尊重・舞台

<地域・企業・大学の姿>
ホンモノの体験・ホンモノの感動を共に味わう姿
ホンモノ

3つの基本方針

10+の姿から導き出される、関係者みんなで共有する方針

8+のプロジェクト

力・姿・基本方針を踏まえた、関係者それぞれが主体となる具体的な活動

推進方策

構想を推進するための仕掛け

- <行政>
- 下段の4つのプロジェクトすべてについて、年度ごとに、その推進のための方策を「年度重点施策」に位置付け、「教育委員会評価」で活用・改善
 - 子供・学校・家庭・地域のプロジェクトを支援

みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる

みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる

社会と未来に開き、みんなでつくる

「子供たちがつくる学校」プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える。子供や学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする、学校が主体の取組（子供、教職員の双方の学びを含む）

「〇〇」プロジェクト

「すべてのいのち」がよろこびあふれる今と未来をつくっていくことにつながる、〇〇〇が主体の取組

「地域共創」プロジェクト

地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域、家庭や企業・大学が主体の取組

「安心できる学校」プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

「学校を支える」プロジェクト

学校の選択や挑戦の基盤を整え、寛容ある取組を支える。行政が主体の取組（真体例）

- ・第4次学校教育基本構想に基づく多様なプロジェクトへの支援
- ・働き方改革の推進
- ・学校支援体制の整備
- ・施設環境の整備

「多様な学びと学び方」プロジェクト

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える。行政が主体の取組（真体例）

- ・教育支援センター機能の充実
- ・発達支援センター機能の充実
- ・専門性による支援の強化
- ・福祉政策、子ども医療を含む関係機関との連携体制の強化

「教育DX」プロジェクト

社会実装のエンジンであるデジタル技術をもっと活用して子供たちの学びや学校を支える。行政が主体の取組（真体例）

- ・情報活用能力の育成・強化
- ・校務支援システム、かしのきシート活用、子供のいのちを応援する仕組みなど、学校デジタル環境の整備・充実
- ・教員の資質能力の向上・強化

「スクールコミュニティ」プロジェクト

学校と地域・企業・大学等が出合いつながら協働を支える。行政が主体の取組（真体例）

- ・コミュニティ・スクールの充実
- ・地域学校協働本部の充実
- ・学校施設の活用促進
- ・施設改善の推進

対話

<家庭・地域等>

- 学校運営協議会、地域学校協働本部、PTA、企業、大学などを主体とした多様なプロジェクトを「地域共創プロジェクト」として位置付け、取組を共有・発信（任意）

<学校>

- 年度ごとに、学校として重点的に取り組むプロジェクトを選択・更新又は新たに立ち上げ、「学校経営方針」のもとに具体的な方策として位置付け、「学校評価」で活用・改善（指標例を活用）
- 教職員による第4次学校教育基本構想に基づく取組の共有

行政、学校、家庭・地域の年度ごとの取組を、第4次学校教育基本構想の推進方策として一体として位置付け

構想の土台

年度ごとの実践の積み重ね

第3次日野市学校教育基本構想（H31-R5）に基づく実践の積み重ね・成果

一律一斉の学びから 自分に合った多様な学びと学び方へ 自分たちで考え 語り合いながら生み出す学び合いと活動へ わくわくが広がっていく環境のデザインへ



<子供たちが喜んでいてほしいカ>

教育理念

子供と大人の10+の姿

基本方針

対話

8+のプロジェクト

推進方策（行政、学校、家庭・地域）

第3次日野市学校教育基本構想

一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ 自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ
わくわくが広がっていく環境のデザインへ

50+回のワークショップ

14,000+人の人

4. 構想の各項目

教育理念

＜子供たち自らが育んでいってほしい力＞

「すべての“いのち”がよろこびあふれる
今と未来をつくっていく力」

持続可能性 Well-being 共生社会

5年後の日野市立学校の姿についての子供たちの声

- ・今と変わらない楽しい・安心して過ごせる学校
- ・今の3年生方がこの学校を良くしたいという気持ちで色々な行動をしてくれたおかげで、今、自分たちは楽しく学校生活を過ごせているのだと思います。
- ・みんなが笑顔
- ・みんなが楽しいと思える学校

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

教職員ワークショップ

子供たちのウェルビーイング

早く学校に行きたい 明日も楽しみ 行く価値
安心・安全 笑顔 みんな幸せ みんなが楽し
「学んでいる、成長している」と実感 仲間
学ぶことが楽しい 勉強が分かる 意見が言
学校ならではの楽しみが味わえる 見てもら

多様性の尊重

個性の尊重 多様性を認め合える 一人一人が大
平等 共生 一人一人が同じ土台にのる 自分らし

身に付けて!

基礎
主 目指す学校像にふ

<学校の姿>

<みんなの姿>

自分と他者の

多様な個性を認め合い、
安心の下で挑戦し失敗し、
ねばり強く乗り越える姿

インクルージョン

検討委員会

子供たちのウェルビー

自ら幸せな人
「学び」と「
友達と楽しく
自分のペース

多様性の尊重

一人一人にあっ
同じところも違

<みんなの姿>

変化を起こすために
自分で目標を設定し、
振り返り、
責任をもって行動する姿

学びの羅針盤

類 安心・安全

る 学びのつながり、深まり
今もっている力を最大限に生
意欲的

仲間と関わり合う

入れる

<みんなの姿>

自分たちで考え、
語り合い学び合い、
違いを力に世界を広げ、
学び続ける姿

対話

・と思える 居心地よく過ごせる 失敗
・生き生き 誰にとっても楽しい 先生も子供も幸せな

認め合って尊重できる 障害者がいてもそれが普通
誰でも入園・通園できる園
「長を見守り育んでほしい
、自由選択児など違ったワードに代わる
フリー インクルーシブ教育

身に付く

自主的に意見を発表・ディスカッションで

教職員のウェルビーイング

<学校の姿>

教職員が中心として

子供・学校・家庭・地域からの声を凝縮した

日野市の学校教育にかかわるみんなで共有したい姿

・協働・成長

学びの環境

質の高い教育環境の整備 落ち着いて学習
子供の「やりたい」を実現できる時間と
授業選択可能な学校（子供たちが教科の
自己選択 居場所 個別学習の時間の
綺麗な校舎や環境 ICT設備 失敗し

地域・家庭等の連携

地域と連携し、子供の学びの支援 地域に
保護者・教員・地域がみんなで子供を育て
地域の方から応援してもらえる、支えたい・協

日野市の魅力

日野市の教育をまねたいと思われる

<家庭・地域の姿>

生き生きとした
'自分たちの学校'
に向けて、
見守り、応援し、
ともに行動する姿

見守り・応援・協働

世の中の動きの先を見

特色ある独自の学

地域・家庭等の連

オープン 学校
学校と地域で分
保護者が進んで
様々な居場所との

日野市の魅力

都内全域から魅力がある

<家庭・地域の姿>

ありのままを認め、
生き生きと遊び、
学べる環境を
支える姿

尊重・舞台

で解決していくことが試みられる学校

やりたいことに取り組む

る 自由に子供に関わり共に
育てができる
パートナーとして信頼

<地域・企業・大学の姿>

ホンモノの体験、
ホンモノの感動を
共に味わう姿

ホンモノ

MTAの距離が近い
が生徒に学びを伝える
ができることをサポート
立てる
誰に対してもオープン
ながりが強い

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

<みんなの姿>

自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿
インクルージョン

変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
学びの羅針盤

自分たちで考え、語り合い学び合い、違いを力に世界を広げ、学び続ける姿
対話

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

＜学校の姿＞

目指す学校像に向け、チームとして協働し、学び合い、成長を実感できる姿
教職員の学び・協働・成長

子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

子供たち全員の居場所と参画・活躍の機会を支える姿
居場所、活躍

教職員が安心して挑戦でき、様々な関係者から応援される姿
挑戦、応援される学校

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

<家庭・地域の姿>

生き生きとした‘自分たちの学校’に向けて、見守り、応援し、ともに行動する姿
見守り・応援・協働

ありのままを認め、生き生きと遊び、学べる環境を支える姿
尊重・舞台

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

<地域・企業・大学等の姿>

ホンモノの体験、ホンモノの感動を共に味わう姿
ホンモノ

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

教職員ワークショップ

子供たちのウェルビーイング

早く学校に行きたい 明日も楽しみ 行く価値がある
安心・安全 笑顔 みんな幸せ みんなが楽しい
「学んでいる、成長している」と実感 仲間が
学ぶことが楽しい 勉強が分かる 意見が言える
学校ならではの楽しみが味わえる 見てもら

＜みんなの姿＞

自分と他者の

多様な個性を認め合い、
安心の下で挑戦し失敗し、
ねばり強く乗り越える姿

多様性の尊重

個性の尊重 多様性を認め合える 一人一人が
居場所 社会 一人一人が輝ける社会の実現 向かい

検討委員会

子供たちのウェルビーイング

自ら幸せな人生を
「学び」と「遊
友達と楽しく
自分のペース

＜みんなの姿＞

変化を起こすために

自分で目標を設定し、

振り返り、

責任をもって行動する姿

多様性の尊重

一人一人が
同じところも

笑顔 安心・安全

れる 学びのつながり、深まり
今もっている力を最大限に生
意欲的

間と関わり合う
る

PTA

＜みんなの姿＞

自分たちで考え、

語り合い学び合い、

違いを力に世界を広げ、

学び続ける姿

たいと思える 居心地よく過ごせる 失敗

い 生き生き 誰にとっても楽しい 先生も子供も幸せな

認め合って尊重できる 障害者がいてもそれが普通

誰でも入園・通園できる園

を見守り育んでほしい

由選択児など違ったワードに代わる

インクルーシブ教育

＜子供たち自らが育んでいってほしい力＞

「すべての“いのち”がよろこびあふれる
今と未来をつくっていく力」

持続可能性 Well-being 共生社会

学び

質の高い教育環境の整備 落ち着いて学習に取り
子供の「やりたい」を実現できる時間と環境
授業選択可能な学校（子供たちが教材の楽し
自己選択 居場所 個別学習の時間の確保
綺麗な校舎や環境 ICT設備 失敗して

＜家庭・地域の姿＞

生き生きとした

‘自分たちの学校’

に向けて、

見守り、応援し、

ともに行動する姿

地域・家庭等の連携

地域と連携し、子供の学びの支援 地域に関
保護者・教員・地域がみんなで子供を育てる
地域の方から応援してもらえる、支えたい・協力

日野市の魅力

日野市の教育をまねたいと思われる

見守り・応援・協働

日野市の魅力

特色ある独自の学校

地域・家庭等の連携

オープン 学校
学校と地域で分
保護者が進んで
様々な居場所と

日野市の魅力

都内全域から魅力があ

＜家庭・地域の姿＞

ありのままを認め、

生き生きと遊び、

学べる環境を

支える姿

尊重・舞台

マツダグループの取り組み

場

自由に関わり共に学

育てができる

パートナーとして信頼

＜地域・企業・大学の姿＞

ホンモノの体験、

ホンモノの感動を

共に味わう姿

ホンモノ

PTAの距離が近い

生徒に学びを伝える

できることをサポート

てる

誰に対してもオープン

が強い

4. 構想の各項目

基本方針

＜みんなの姿＞
自分と他者の
多様な個性を認め合い、
安心の下で挑戦し失敗し、
ねばり強く乗り越える姿

＜みんなの姿＞
変化を起こすために
自分で目標を設定し、
振り返り、
責任をもって行動する姿

＜みんなの姿＞
自分たちで考え、
語り合い学び合い、
違いを力に世界を広げ、
学び続ける姿

10+の姿から導き出される関係者みんなで共有する方針

＜家庭・地域の姿＞
生き生きとした
'自分たちの学校'に向けて、
見守り、応援し、
ともに行動する姿

見守り・応援・協働

＜家庭・地域の姿＞
ありのままを認め、
生き生きと遊び、
学べる環境を
支える姿

尊重・舞台

＜地域・企業・大学の姿＞
ホンモノの体験、
ホンモノの感動を
共に味わう姿

ホンモノ

みんなが当事者として、
自ら歩む道をつくる

みんなの多様な学びと
多様なしあわせをつくる

社会と未来に開き、
みんなで作る

4. 構想の各項目

基本方針

<みんなの姿>

変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
学びの羅針盤

<学校の姿>

目指す学校像に向け、チームとして協働し、学び合い、成長を実感できる姿
教職員の学び・協働・成長

子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

<家庭・地域の姿>

生き生きとした‘自分たちの学校’に向けて、見守り、応援し、ともに行動する姿
見守り・応援・協働



みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる

4. 構想の各項目

基本方針

<みんなの姿>

自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿
インクルージョン

<学校の姿>

子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

子供たち全員の居場所と参画・活躍の機会を支える姿
居場所、活躍

教職員が安心して挑戦でき、様々な関係者から応援される姿
挑戦、応援される学校



みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる

4. 構想の各項目

基本方針

<みんなの姿>

自分たちで考え、語り合い学び合い、違いを力に世界を広げ、学び続ける姿

対話

<家庭・地域の姿>

ありのままを認め、生き生きと遊び、学べる環境を支える姿

尊重・舞台

<地域・企業・大学の姿>

ホンモノの体験、ホンモノの感動を共に味わう姿

ホンモノ



社会と未来に開き、みんなでつくる

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

「子供たちがつくる学校」プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組
(子供、教職員の双方の学びを含む)

「〇〇」プロジェクト

「すべての「いのち」がよろこびあふれる「今」と「未来」をつくっていく」ことにつながる、〇〇〇が主体の取組

「地域共創」プロジェクト

地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域や家庭や企業・大学が主体の取組

「安心できる学校」プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

力・姿・基本方針を踏まえた 関係者それぞれが主体となる具体的な活動

子供たちが主体的に学び、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・第四次学校教育基本構想に基づく多様なプロジェクトへの支援
- ・働き方改革の推進
- ・学校支援体制の整備
- ・施設環境の整備

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・教育支援センター機能の充実
- ・発達教育支援センター機能の充実
- ・専門家による支援の強化
- ・福祉政策、子ども政策を含む関係機関との連携体制の強化

社会とつながる学びの場を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・情報活用能力の育成・強化
- ・校務支援システム、かしのきシート改善、子供のSOSを把握する仕組みなど、学校デジタル環境の整備・充実
- ・教員の資質能力の向上・強化

学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・コミュニティスクールの充実
- ・地域学校協働本部の充実
- ・学校施設の活用促進
- ・部活動改革の推進

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

「子供たちがつくる学校」プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組
(子供、教職員の双方の学びを含む)

「〇〇」プロジェクト

「すべての『いのち』がよろこびあふれる『今』と『未来』をつくっていく」ことにつながる、〇〇〇が主体の取組

「地域共創」プロジェクト

地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域や家庭や企業・大学が主体の取組

「安心できる学校」プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

対話

「学校を支える」プロジェクト

学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・第四次学校教育基本構想に基づく多様なプロジェクトへの支援
- ・働き方改革の推進
- ・学校支援体制の整備
- ・施設環境の整備

「多様な学びと学び方」プロジェクト

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・教育支援センター機能の充実
- ・発達教育支援センター機能の充実
- ・専門家による支援の強化
- ・福祉政策、子ども政策を含む関係機関との連携体制の強化

「教育DX」プロジェクト

社会変革のエンジンであるデジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・情報活用能力の育成・強化
- ・校務支援システム、かしのきシート改善、子供のSOSを把握する仕組みなど、学校デジタル環境の整備・充実
- ・教員の資質能力の向上・強化

「スクールコミュニティ」プロジェクト

学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組

(具体例)

- ・コミュニティスクールの充実
- ・地域学校協働本部の充実
- ・学校施設の活用促進
- ・部活動改革の推進

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

対話

「子供たちがつくる学校」プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

学校

「安心できる学校」プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組（子供、教職員の双方の学びを含む）

「〇〇」プロジェクト

「すべての‘いのち’がよろこびあふれる‘今’と‘未来’をつくっていく」ことにつながる、〇〇が主体の取組

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

対話

家庭
地域
企業
大学

「地域共創」プロジェクト

地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域や家庭や企業・大学が主体の取組

「〇〇」プロジェクト

「すべての‘いのち’がよろこびあふれる‘今’と‘未来’をつくっていく」ことにつながる、〇〇が主体の取組

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

対話

「学校を支える」プロジェクト

学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組

「多様な学びと学び方」プロジェクト

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組

行政

「教育DX」プロジェクト

社会変革のエンジンであるデジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組

「スクールコミュニティ」プロジェクト

学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組

「〇〇」プロジェクト

「すべての‘いのち’がよろこびあふれる‘今’と‘未来’をつくっていく」ことにつながる、〇〇が主体の取組

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる



対話

「子供たちがつくる学校」プロジェクト

子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組（子供、教職員の双方の学びを含む）

「学校を支える」プロジェクト

学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる



対話

「学びの変革」プロジェクト

一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組（子供、教職員の双方の学びを含む）

「安心できる学校」プロジェクト

自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

「多様な学びと学び方」プロジェクト

特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組

4. 構想の各項目

8+のプロジェクト

社会と未来に開き、みんなでつくる

対話

「地域共創」プロジェクト

地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域や家庭や企業・大学が主体の取組

「教育DX」プロジェクト

社会変革のエンジンであるデジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組

「スクールコミュニティ」プロジェクト

学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組

4. 構想の各項目

推進方策

<学校>

- ・ 年度ごとに、重点的に取り組むプロジェクトを**立ち上げ** / 選択し、「**学校経営方針**」のもとに具体的な方策を位置付け、「**学校評価**」で活用・改善（指標例を活用）
- ・ 教職員による第四次学校教育基本構想に基づく取組の共有

構想を推進するための仕掛け

<行政>

- ・ 下段の4つのプロジェクトすべてについて、年度ごとに、その推進のための方策を「**年度重点施策**」に位置付け、「**教育委員会評価**」で活用・改善
- ・ 子供・学校・家庭・地域のプロジェクトを支援

4. 構想の各項目

推進方策

<学校>

- ・ 年度ごとに、重点的に取り組むプロジェクトを立ち上げ / 選択し、「**学校経営方針**」のもとに具体的な方策を位置付け、「**学校評価**」で活用・改善（指標例を活用）
- ・ 教職員による第四次学校教育基本構想に基づく取組の共有

4. 構想の各項目

推進方策

<家庭・地域>

- ・ 学校運営協議会、地域学校協働本部、PTAなどを主体とした多種多様なプロジェクトを「**地域共創プロジェクト**」として位置付け、取組を共有・発信（任意）

4. 構想の各項目

推進方策

<行政>

- ・ 下段の4つのプロジェクトすべてについて、年度ごとに、その推進のための方策を「**年度重点施策**」に位置付け、「**教育委員会評価**」で活用・改善
- ・ 子供・学校・家庭・地域のプロジェクトを支援

4. 構想の各項目

子供と大人の10+の姿

教職員ワークショップ

子供たちのウェルビーイング

早く学校に行きたい 明日も楽しみ 行く価値がある
安心・安全 笑顔 みんな幸せ みんなが楽しい
「学んでいる、成長している」と実感 仲間が
学ぶことが楽しい 勉強が分かる 意見が言える
学校ならではの楽しみが味わえる 見てもら

＜みんなの姿＞

自分と他者の

多様な個性を認め合い、
安心の下で挑戦し失敗し、
ねばり強く乗り越える姿

多様性の尊重

個性の尊重 多様性を認め合える 一人一人が
言葉 社会 一人一人が輝ける社会の実現 自由

検討委員会

子供たちのウェルビーイング

自ら幸せな人生を
「学び」と「遊
友達と楽しく
自分のペース

＜みんなの姿＞

変化を起こすために

自分で目標を設定し、

振り返り、

責任をもって行動する姿

多様性の尊重

一人一人に
同じところも

笑顔 安心・安全

れる 学びのつながり、深まり
今もっている力を最大限に生
意欲的

間と関わり合う

PTA

＜みんなの姿＞

自分たちで考え、

語り合い学び合い、

違いを力に世界を広げ、

学び続ける姿

たいと思える 居心地よく過ごせる 失敗

い 生き生き 誰にとっても楽しい 先生も子供も幸せな

認め合って尊重できる 障害者がいてもそれが普通

誰でも入園・通園できる園

を見守り育んでほしい

由選択児など違ったワードに代わる

インクルーシブ教育

＜子供たち自らが育んでいってほしい力＞

「すべての“いのち”がよろこびあふれる

今と未来をつくっていく力」

持続可能性 Well-being 共生社会

学び

質の高い教育環境の整備 落ち着いて学習に取り
子供の「やりたい」を実現できる時間と環境
授業選択可能な学校（子供たちが教材の楽し
自己選択 居場所 個別学習の時間の確保
綺麗な校舎や環境 ICT設備 失敗して

＜家庭・地域の姿＞

生き生きとした

‘自分たちの学校’

に向けて、

見守り、応援し、

ともに行動する姿

地域・家庭等の連携

地域と連携し、子供の学びの支援 地域に関
保護者・教員・地域がみんなで子供を育てる
地域の方から応援してもらえる、支えたい・協力

日野市の魅力

日野市の教育をまねたいと思われる

見守り・応援・協働

日野市の魅力

特色ある独自の学校

地域・家庭等の連携

オープン 学校

学校と地域で分

保護者が進んで

様々な居場所と

日野市の魅力

都内全域から魅力があ

＜家庭・地域の姿＞

ありのままを認め、

生き生きと遊び、

学べる環境を

支える姿

尊重・舞台

日野市の魅力

マツリノに近いため

る 自由に子供に関わり共に学

育てができる

パートナーとして信頼

＜地域・企業・大学の姿＞

ホンモノの体験、

ホンモノの感動を

共に味わう姿

ホンモノ

PTAの距離が近い

が生徒に学びを伝える

できることをサポート

てる

誰に対してもオープン

が強い

第4次日野市学校教育基本構想 骨子案

ありがとうございました。



日野市教育委員会 事務局